

学部編



各種資格に関する教育課程表

1 ファイナンシャル・プランナー資格について

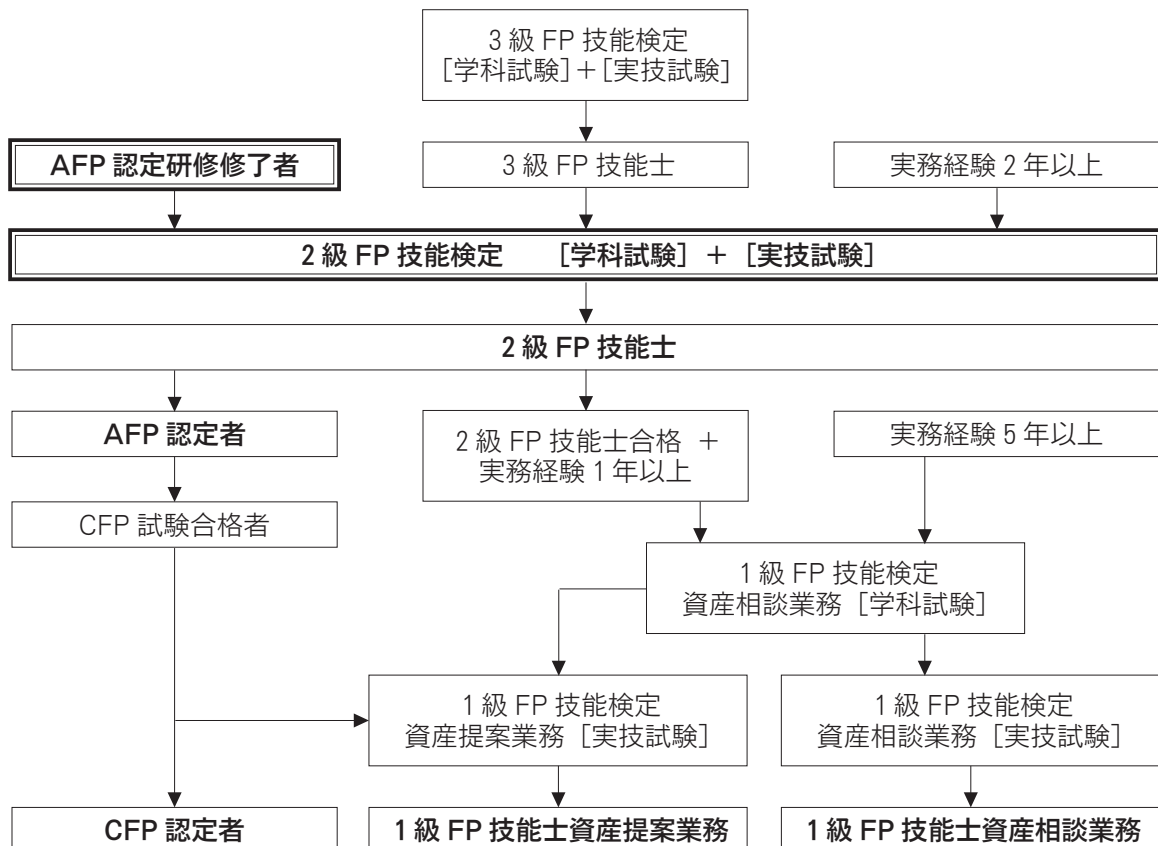
〔1〕ファイナンシャル・プランナー資格とは？

日本版金融ビッグバンに伴う金融商品や資産運用方法の多様化、終身雇用制度の崩壊、退職金や年金への不安といった諸課題を抱える今日、生活者が自己責任のもとに生涯にわたって自らのライフスタイルを実現していく上で、パーソナル・ファイナンシャル・プランニングの重要性はますます高まっています。しかし、生活者自身がパーソナル・ファイナンシャル・プランニングに必要な経済・金融・保険・不動産・税金・社会保険制度などについての知識や技術をすべてにわたって身につけることは困難です。ファイナンシャル・プランナーは、こうしたパーソナル・ファイナンシャル・プランニングに必要な包括的かつ専門的な知識・技術を身につけ、生活者の生涯にわたる夢の実現をサポートする「生活設計のアドバイザー」です。近年、銀行・証券・保険などの金融業界における必須資格となってきました。

〔2〕ファイナンシャル・プランナー資格試験の概要

ファイナンシャル・プランニングに関わる技能検定の体系は下の図に示すとおりで、NPO 法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会（AFP・CFP）および、社団法人金融財政事情研究会（3級・2級・1級FP技能士）の両機関によって運営、実施されています。

生活マネジメント学科のカリキュラムは、NPO 法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会による認証を受けているため、指定科目の履修、修了により、AFP 認定研修修了者として、実務経験などの条件無しにAFP（2級FP技能検定）受験資格を取得することができます。



〔3〕AFP 認定研修課程

(1) AFP 認定研修課程の科目構成

AFP 認定研修の修了には、指定科目の履修とともに、模擬的にライフプランを作成する「提案書」の作成と合格（60点／100点以上）を必要とします。特別認定教育機関として、生活マネジメント学科が提供する指定科目とその具体的学習内容は以下の表のとおりです。

生活マネジメント学科開講科目名称	具体的学習内容	開講学年 学期	単位数
ファイナンシャルプランニングA	FP 基礎 ライフプランニング・リタイアメントプランニング タックスプランニング	2年 後期	2
ファイナンシャルプランニングB	金融資産運用設計 リスクと保険	2年 後期	2
ファイナンシャルプランニングC	不動産運用設計 相続・事業承継設計	3年 前期	2
ファイナンシャルプランニングD	提案書の作成 AFP 資格試験過去問題の研究 AFP 資格試験受験オリエンテーション	3年 前期	2

(2) AFP 認定研修課程履修上の注意

AFP 認定研修課程は、2年次後期から3年次前期を通した1年間の資格課程です。指定4科目の履修においては、必ず2年次後期に「ファイナンシャルプランニングA」「ファイナンシャルプランニングB」の2科目を履修し、それに続けて3年次前期に「ファイナンシャルプランニングC」「ファイナンシャルプランニングD」を履修しなければ、AFP 認定研修の修了要件を満たすことができません（3年次後期から4年次前期にかけて同様に履修しても可）。

AFP 認定研修課程受講に際しては、事前に NPO 法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会への受講者登録を必要とします。学科が事前に開催する AFP 認定研修課程受講説明会に参加し、必ず協会への受講者登録をしてください。なお、学習効果の観点から、協会よりこの認定研修課程の受講者数が、上限60名と定められているため、AFP 認定研修課程受講説明会において上限を超える受講希望者があった場合には、選考を行う場合がありますので注意してください。

〔4〕資格取得までのスケジュール

当年度夏休前 AFP 認定研修受講説明会、受講者登録
 当年度後期 AFP 認定研修カリキュラム受講（2科目）
 次年度前期 AFP 認定研修カリキュラム受講（2科目）、提案書の作成

↓

AFP 認定研修修了証発行
 2級FP技能検定試験受験申請
 2級FP技能検定試験受験（9月予定）

〔5〕課程履修費について

AFP 認定研修課程を履修するには学納金とは別に課程費が必要です。課程費は2,500円（2年次後期）、2,000円（3年次前期）です。徴収方法は学納金の口座からの引き落としになります。引き落としに際しては事前にご案内します。

2 博物館学芸員資格について

博物館、美術館、民俗資料館などには専門職員として学芸員を置くことが義務づけられています（博物館法第4条第3項）。学芸員は博物館において資料の収集、保管、展示や調査・研究などの専門的な仕事に従事します。

学芸員の資格を取得するためには、「学士の学位を有し、大学において文部省令で定める博物館に関する科目の単位を修得する」（博物館法第5条第1項）ことが必要です。資格取得については次の表にしたがって科目を履修してください。

博物館実習(2)は4年次の、主として夏休みの期間中に行われます。実習先は原則的には大学の方で依頼・確定しますが、実習可能な館は少なく、また実習自体も大変難しく厳しいものです。したがって、博物館実習に参加する前に各自においても、相応の学習が望まれます。なんとなく資格をと思っている学生では実習できません。また、実習中に学生側の責任で問題が生じた場合には実習を中止させることがあります。

いずれにしても事前に十分な準備が欠かせません。

どうして学芸員になりたいのか、どういう学芸員になりたいのか、ということについて明確な目的意識をもち、しっかりした心構えで望むことが必要です。

	科 目 (法令上の科目)	単 位	相 当 科 目 (大学における開講科目)	開講基準年次及び単位数				備 考			
				1年	2年	3年	4年				
必修科目	生涯学習概論	1	生涯学習論		2						
	博物館学 (博物館概論・博物館経営論・博物館資料論・博物館情報論)	6	博物館学(1)		2						
			博物館学(2)		2						
			博物館学(3)			2					
	博物館実習	3	博物館実習(1)			2					
			博物館実習(2)				2				
視聴覚教育メディア論	1	教育メディア論		2							
教育学概論	1	教育制度の研究		2							
選択必修科目	美術史	2系列 8単位以上	日本建築史			2					
			西洋建築史			2					
			近代建築史	2							
			インテリアデザイン史	2							
			工芸論			2					
			日本美術史			2					
			西洋美術史A			2					
			西洋美術史B			2					
			東洋美術史			2					
			現代美術A		2						
			現代美術B			2					
			民俗学			文化人類学			2		隔年開講
						住生活論			2		
服飾文化史		2				2					
比較家族論		2									

※課程履修費について

本課程を履修するには学納金とは別に課程費が必要です。課程費は3,000円（3年次）、17,000円（4年次）です。徴収方法は学納金の口座からの引き落としとなります。引き落としに際しては事前にご案内します。

3 テキスタイルアドバイザー(衣料管理士)2級の資格について

現代のアパレル製品は、消費者ニーズの高度化、個性化にともない、多様化、複雑化が進んでいます。新しい加工技術や素材の開発は、私たちの生活を潤いある豊かなものへと導いてくれますが、一方で、品質情報の提供不足などが消費者苦情を生み出す誘因となり、経済産業省に寄せられる苦情のうち繊維製品に関するものが実に1/4以上を占めていると言われてしています。消費者の信頼を得ながら企業が快適で品質の高い製品を開発し、需要や販路を拡大していくためには、消費者の実態とニーズを正しくとらえ、マーケットに即した対応が必要です。こうした要求に応えるためには、アパレルの生産・流通・消費の各段階において、専門知識や技術を身につけ消費者と企業とを結ぶパイプ役を果たすことのできる人材が必要となります。

テキスタイルアドバイザーは、消費者と企業の間を円滑にする役割を担うために必要な専門知識を有する人に与えられる資格です。この資格を取得することで、テキスタイルおよびアパレル製品を扱う企業や機関において、品質管理、企画、生産、販売、仕入れ、コンサルタント、苦情処理などの分野に活躍の場があり、消費生活の向上と企業の発展に貢献することができます。

環境デザイン学科アパレルファッションコース所定の本資格に関する科目(2.参照)の単位を修得し、本学で実施する資格認定試験に合格すれば、テキスタイルアドバイザーの資格を卒業時に取得することができます。資格取得を希望する人は、積極的に専門知識の修得に励んで下さい。

1 資格認定機関

社団法人 日本衣料管理協会

(注)日本衣料管理協会は、経済産業省製造産業局の所管、監督のもとに、テキスタイルアドバイザー養成大学、主要業界団体(テキスタイルメーカー、染色整理業、アパレルメーカー、百貨店、量販店、クリーニング業、行政、検査機関等)、学識経験者、およびテキスタイルアドバイザー会員、繊維製品品質管理士(TES)会員によって構成されています。

2 資格要件カリキュラム

テキスタイルアドバイザーの資格要件のカリキュラムは、生産、流通、消費にわたる幅広いもので、アパレル製品に関して「材料」「加工・整理」「企画・造形」「流通・消費・環境」の4つの側面から学びます。

次表の環境デザイン学科アパレルファッションコース所定の開講科目は、すべてテキスタイルアドバイザー2級の資格を取得するための必修科目です。

グループ	環境デザイン学科 アパレルファッションコースの開講科目	年次および単位数				
		1年次	2年次	3年次	4年次	計
材料	テキスタイル材料学(1)		2			6
	テキスタイル材料学(2)		2			
	テキスタイル材料学実験			2		
加工 整理	アパレル管理学				2	4
	アパレル管理学実験				2	

グループ	環境デザイン学科 アパレルファッションコースの開講科目	年次および単位数				
		1年次	2年次	3年次	4年次	計
企画 ・ 造形	アパレル企画実習			2		18
	ファッションデザイン論	2				
	アパレル構成学	2				
	アパレル生産システム			2		
	人体とパターンメイキング	2				
	ドレーピングの基礎		1			
	アパレル生産システム実習			2		
	コンピュータパターンメイキング			1		
	バーチャルファッションコーディネートB		1			
	カラーコーディネート論	2				
カラーコーディネート演習		1				
流通 ・ 消費 ・ 環境	ファッションビジネス		2			16
	衣服と健康の科学			2		
	着心地の科学	2				
	アパレル衛生学実験			2		
	ファッション心理学		2			
	ファッション調査法			2		
	人と温熱環境	2				
生活情報論				2		
単 位 合 計					44	

3 資格の認定について

上記の所定カリキュラムの単位修得後、下記の2科目の資格認定一般試験が本学において実施され、合格すると認定証が交付されます。

4年次	1月 資格認定一般試験 「消費科学Ⅱ」 「論文」 3月 認定証交付
-----	--

4 課程履修費について

本課程を履修するには学納金とは別に課程費が必要です。課程費は9,700円(2年次)です。徴収方法は学納金の口座からの引き落としとなります。引き落としに際しては事前にご案内します。

5 テキスタイルアドバイザー認定証交付料等について

テキスタイルアドバイザー資格認定時(4年卒業時)に認定証交付料、衣料管理協会入会費等として15,000円(認定証交付料(税込)7,400円・協会入会費2,000円・協会年会費等5,600円)を徴収します。

4 アメニティスペシャリスト(生理人類士2級)について

近年、さまざまな職場や社会全般で「アメニティ」という資格をもった人が活躍しています。「アメニティ」資格とは、あらゆる人が暮らしやすい生活環境の提案・アドバイスを行うことのできる資格です。生活環境、オフィス環境を安全かつ快適に過ごすために、色や光、温度などの適切な状態を研究し、その研究の成果を、実際の暮らしと環境に生かす仕事です。「アメニティ」資格を持つことで、高齢者や障害者を含めたあらゆる人、働く人のからだにやさしい環境づくりを追求し、実践しながら社会に貢献できます。

アメニティスペシャリスト(生理人類士2級)とは、人間と環境の快適性(アメニティ)をデザインし、評価できる人材の育成を目指し、日本生理人類学会が認定する資格です。環境デザイン学科に在籍する学生は、所定の単位を修得すれば、在学中に受験することができます。

1 受験資格要件

受験に際しては、以下の表に示す所定単位をみたしていることが条件になります。受験申込時に、成績単位修得通知表のコピーを添付してください。

2 受験申込手続き

試験は大学で受験できます。申し込み期間、方法については、環境デザイン学科の掲示でお知らせします。受験するために必要な費用は10,000円です。詳細はオリエンテーションで説明します。

区分	単位修得要件	授業科目	単位数	区分	単位修得要件	授業科目	単位数
人間科学系科目、生活科学系科目	12単位以上	衣生活概論	2	行福祉系、情報処理科系	4単位以上	ユニバーサルデザイン論	2
		住居学概論(製図を含む)	2			ユニバーサルデザイン実習	1
		食と健康	2			ユニバーサルデザイン特論	2
		着心地の科学	2			コンピュータ操作技法A	2
		人と物質の科学	2			コンピュータ操作技法B	2
		生活と環境衛生	2	人文・社会科学系科目	2単位以上	哲学	2
		人と温熱環境	2			心理学A	2
		環境とアレルギー	2			法学A	2
		衣服と健康の科学	2			社会学A	2
		環境と心理	2			社会学B	2
	人間工学	2	社会学C	2			
	生活環境実験A	2					
	生活環境実験B	2					
	住生活論	2					
	住居計画	2					
	建築計画学	2					
	居住福祉論	2					
	室内環境学(1)	2					
	室内環境学(2)	2					
	建築設備	2					

5 インテリアプランナーについて

インテリアプランナー資格は、財建築技術教育普及センターが認定する民間資格で、インテリアの企画・設計・工事監理に関する専門的知識と技能を保証するものです。インテリア設計業務を中心とした仕事を目指す人は、ぜひ取っておきたい資格です。

インテリアプランナーの資格を得るためには、財建築技術教育普及センターが実施する試験を受験し、合格し登録を行う必要があります。「学科試験」「設計製図試験」の受験資格は当該年度4月1日現在で、満20歳以上の者です。環境デザイン学科に在籍し、下表に定める科目を全て履修した者で、インテリアプランナー試験の合格者は、卒業後2年以上の実務経験を経て、インテリアプランナー登録を受けることができます。

修得しなければならない科目は、次の表のとおりです。

科目名	インテリア・生活環境コース	住宅・都市環境コース
生活環境学概論	2	2
デザイン基礎実習		2
近代建築史		2
空間デザイン概論		2
住居計画	2	2
建築計画学	2	2
人と温熱環境	2	
室内環境学(1)	2	2
建築設備	2	2
構造デザイン論(1)	2	2
構造デザイン論(2)		2
構造デザイン論(3)		2
構造デザイン演習		1
建築材料学		2
建築法規		2
建築施工		2
建築基礎製図		2
空間デザイン基礎実習	2	2
空間デザイン実習(1)		2
空間デザイン実習(2)		2
空間デザイン実習(3)		2
住居学概論（製図を含む）	2	
カラーコーディネート論	2	
ユニバーサルデザイン論	2	
インテリアデザイン史	2	
環境とアレルギー	2	
環境と心理	2	
人間工学	2	
インテリアテキスタイル	2	
インテリアデザイン論	2	
インテリア基礎製図	2	
インテリアコーディネート実習	1	
合計	必修合計37単位	必修合計39単位

※履修上の注意

- ①インテリア・生活環境コースの学生で、インテリアプランナーの資格を取得希望の者は、上記科目一覧を見て、科目履修計画をたてること。
- ②住宅・都市環境コースの学生は、コース必修科目を履修するだけで単位修得要件をみたすことができる。

6 一級建築士、二級建築士、木造建築士について

〔1〕 建築士資格について

建築士の資格は、建築士法に定められた国家資格です。一定の規模・構造・機能の建物になると、有資格者でなければ設計や工事監理を行うことができません。従って、住宅・建築関連の業界で活躍するためには必須の資格となります。建築士には、一級建築士、二級建築士、木造建築士、構造設計一級建築士、設備設計一級建築士の5種類があり、それぞれ業務の範囲が定められています（建築士法第三条、第二十条の二および第二十条の三）。詳しくは（財）建築技術教育普及センターのホームページを参照して下さい（<http://www.jaeic.or.jp>）。

〔2〕 受験資格について

環境デザイン学科で住宅・都市環境コースを履修し、下表に定めた二級建築士および木造建築士試験受験資格取得のための単位修得要件に従って指定科目を修得すると、二級建築士および木造建築士試験の受験資格を得ることができます。

また、環境デザイン学科で住宅・都市環境コースを履修し、下表に定めた一級建築士試験受験資格取得のための単位修得要件に従って指定科目を修得し、さらに建築に関する実務経験2年で、一級建築士試験の受験資格を得ることができます。

指定科目の分類	指定科目名	単位数	単位修得要件	
			一級建築士	二級建築士
①建築設計製図	建築基礎製図	2	7 単位以上	5 単位以上
	空間デザイン基礎実習	2		
	空間デザイン実習(1)	2		
	空間デザイン実習(2)	2		
	空間デザイン実習(3)	2		
	空間デザイン実習(4)	2		
	空間デザイン実習(5)	2		
②建築計画	住居計画	2	7 単位以上	7 単位以上
	住生活論	2		
	建築計画学	2		
	居住福祉論	2		
	都市計画学	2		
	まちづくり論	2		
	近代建築史	2		
	日本建築史	2		
	西洋建築史	2		
③建築環境工学	室内環境学(1)	2	2 単位以上	7 単位以上
	室内環境学(2)	2		
④建築設備	建築設備	2	2 単位以上	

指定科目の分類	指定科目名	単位数	単位修得要件		
			一級建築士	二級建築士	
⑤構造力学	構造デザイン論(2)	2	4 単位以上	6 単位以上	
	構造デザイン論(3)	2			
⑥建築一般構造	構造デザイン論(1)	2	3 単位以上		
	構造デザイン演習	1			
⑦建築材料	建築材料学	2	2 単位以上		
	建築材料学実験	2			
⑧建築生産	建築施工	2	2 単位以上		1 単位以上
⑨建築法規	建築法規	2	1 単位以上		1 単位以上
⑩その他	空間デザイン概論	2			
	空間デザイン特論 A	2			
	空間デザイン特論 B	2			
	人間工学	2			
	人と温熱環境	2			
	環境と心理	2			
	測量実習	2			
空間 C A D 実習 (基礎)	2				
総計			60 単位以上	40 単位以上	

※住宅・都市環境コースの学生は、コースの卒業要件をみたすことで、一級、二級、木造、いずれの単位修得要件もみたすことができます。

〔3〕 証明書の発行について

受験資格を得ると、国土交通大臣が行う一級建築士試験、都道府県知事が行う二級建築士試験または木造建築士試験を受験することができます。受験の際には、「一級建築士試験指定科目修得単位証明書・卒業証明書」または「二級建築士試験指定科目修得単位証明書・卒業証明書」を大学（学生生活支援センター）でお申込みください。

7 商業施設士について

商業施設士の資格は、(社)商業施設技術者・団体連合会が認定する民間資格で、商業施設の運営・管理システム、店舗の構成・デザインなどを総合的に計画して、監理まで行なうことのできる技能を保証するものです。

単位修得要件をみたした者は、その年度の2月もしくは10月に実施される講習会を受け、商業施設士補となることができます。さらに、商業施設士補となった者は、次の年度に実施される試験に合格すれば、商業施設士になることができます。その際、1次試験が免除されます。

修得しなければならない科目は、次の表のとおりです。

区分	単位修得要件	授 業 科 目	単位数
商業一般	4単位以上	生活環境学概論	2
		消費生活論	2
		ファッションビジネス	2
		ファッション調査法	2
		生活情報論	2
		住生活論	2
		空間デザイン概論*	2
		デザイン基礎実習	2
商業施設構設計画	10単位以上	カラーコーディネート論	2
		カラーコーディネート演習	1
		人と温熱環境	2
		環境と心理	2
		人間工学	2
		ユニバーサルデザイン論	2
		ユニバーサルデザイン特論	2
		ユニバーサルデザイン演習	1
		住居計画	2
		建築計画学*	2
		居住福祉論	2
		空間デザイン特論A	2
		空間デザイン特論B	2
		インテリアデザイン史	2
		室内環境学(1)*	2
		室内環境学(2)	2
		都市計画学	2
		まちづくり論	2
		都市設計論	2
		造園学	2
インテリアデザイン論	2		
建築一般及び 工事監理・施工	4単位以上	日本建築史	2
		西洋建築史	2
		近代建築史*	2
		建築設備	2
		構造デザイン論(1)	2
		構造デザイン論(2)	2
		構造デザイン論(3)	2
		構造デザイン演習	1
		建築材料学	2
		インテリアテキスタイル	2
		建築法規*	2
		建築施工	2
		建築材料学実験	2
		測量実習	2
設計製図	12単位以上	建築基礎製図	2
		インテリア基礎製図*	2
		空間デザイン基礎実習*	2
		空間デザイン実習(1)*	2
		空間デザイン実習(2)*	2
		空間デザイン実習(3)*	2
		空間デザイン実習(4)	2
		空間デザイン実習(5)	2
		インテリアコーディネート実習	1
		空間CAD実習(基礎)*	2
		空間CAD実習(インテリア)	1

※履修上の注意

- ①住宅・都市環境コースの学生は、コース必修科目と、「空間CAD実習(基礎)」もしくは「測量実習」を履修すれば、3年次の10月に商業施設士補の講習会を受講することができます。
- ②インテリア・生活環境コースの学生が、商業施設士補講習会を受講するための推奨科目を表中に示した(*印の科目)。推奨科目とコース必修科目を履修すると、3年次の10月に講習会を受講することができます。

8 管理栄養士について

管理栄養士は、厚生労働大臣の許可を受けて1) 傷病者に対して療養のために必要な栄養の指導（臨床栄養領域）、2) 個人の身体の状態、栄養状態などに応じた高度の専門的知識及び技能を要する健康の保持・増進のための栄養の指導（公衆栄養領域）、3) 特定多数の人に対して継続的に食事を供給する施設における利用者の身体状況、栄養状態、利用の状況などに応じた給食管理及びこれらの施設に対する栄養改善上必要な指導など（給食経営管理領域）を行う職業です。管理栄養士国家試験に合格する必要があります。

卒業までに修得しなくてはならない科目は、次の表のとおりです。

指定教育内容	単位数		本学開講科目	科目形態と単位数の必修・選択の別		開講基準年次及び単位数							
	講義又は演習	実験又は実習		形態	必修	選択	1年	2年	3年	4年			
社会・環境と健康	6		社会保健学	講義	2			2					
			公衆衛生学(1)	講義	2			2					
			公衆衛生学(2)	講義	2			2					
人体の構造と機能、 疾病の成り立ち	14	10	病原微生物学	講義	2			2					
			解剖生理学(1)	講義	2		2						
			解剖生理学(2)	講義	2			2					
			解剖生理学実験(1)	実験	1			1					
			解剖生理学実験(2)	実験	1					1			
			病理学総論	講義	2			2					
			病理学各論	講義	2					2			
			生化学(1)	講義	2		2						
			生化学(2)	講義	2			2					
			生化学実験(1)	実験	1			1					
			生化学実験(2)	実験	1					1			
			食べ物と健康	8		食品学(1)	講義	2		2			
食品学(2)	講義	2					2						
食品学実験(1)	実験	1					1						
食品学実験(2)	実験	1						1					
食品衛生学	講義	2								2			
食品衛生学実験	実験	1								1			
調理学	講義	2					2						
調理学実習(1)	実習	1					1						
調理学実習(2)	実習	1					1						
調理学実習(3)	実習	1							1				
小計	28	10	小計		38								
基礎栄養学	32	12	基礎栄養学	講義	2		2						
			栄養学実習	実習	1		1						
			応用栄養学総論	講義	2			2					
			母子栄養学	講義	2			2					
			加齢栄養学	講義	2			2					
			応用栄養学実習	実習	1					1			
			栄養教育原論	講義	2			2					
			栄養教育各論	講義	2					2			
			栄養教育論実習	実習	1					1			
			栄養カウンセリング論	講義	2					2			
			栄養カウンセリング実習	実習	1					1			
			臨床栄養学	8	8	疾病別栄養管理論	講義	2			2		
						臨床栄養学	講義	2					2
						栄養アセスメント論	講義	2			2		
						臨床栄養管理論	講義	2			2		
						疾病別栄養管理実習	実習	1			1		
						臨床栄養学実習	実習	1					1
			公衆栄養学	4		公衆栄養学(1)	講義	2				2	
						公衆栄養学(2)	講義	2					2
公衆栄養学実習	実習	1								1			
給食経営管理論	4		給食経営管理論	講義	2			2					
			フードマネージメント論	講義	2				2				
			給食経営管理実習	実習	1				1				
総合演習 臨地実習	2	4	栄養総合演習	講義	2				2				
			臨地実習	実習	4					4			
小計	32	12	小計		44								
合計	60	22	合計		82								

※課程履修費について

本課程を履修するには学納金とは別に課程費が必要です。課程費は35,000円（1年次）、50,000円（2年次）、75,000円（3年次）、50,000円（4年次）です。徴収方法は学納金の口座からの引き落としとなります。引き落としに際しては事前にご案内します。

9 食品衛生監視員及び食品衛生管理者について

食品衛生監視員について

食品衛生法に規定された職務及び食品衛生に関する指導を行う技術系公務員で、主に国の検疫所と地方自治体の保健所に所属し、食品の検査や食中毒の調査、食品製造業や飲食店の衛生監視、指導及び教育を行います。本学では食品衛生監視員任用資格を取得できます。

食品衛生管理者について

食品衛生法により食品衛生法施行令に指定のある食肉製品製造業など衛生上の考慮を必要とする一定の食品又は食品添加物の製造又は加工を行う営業所で、食品衛生法第48条の規定により、施設における製造もしくは加工の段階で衛生上の考慮を必要とする食品や添加物などにおいて衛生管理を行います。

* 食品衛生監視員任用資格ならびに食品衛生管理者資格は、学科必修科目に加えて指定された化学関連の1科目を履修することが取得要件です。

区分	単位修得要件	授業科目	形態	開講基準年次及び単位数			
				1年	2年	3年	4年
A群：化学関係	A群からD群までそれぞれ1科目以上 A群からE群までの総単位数 合計22単位以上 合計40単位以上	★基礎化学	講義	2			
		○基礎有機化学	講義	2			
		○分析化学	講義		2		
B群：生物化学関係		★生化学(1)	講義	2			
		★生化学(2)	講義		2		
		★生化学実験(1)	実験		1		
		★生化学実験(2)	実験			1	
		★解剖生理学(1)	講義	2			
		★解剖生理学(2)	講義		2		
		★解剖生理学実験(1)	実験		1		
		★解剖生理学実験(2)	実験			1	
		★食品学(1)	講義	2			
		★食品学(2)	講義	2			
		★食品学実験(1)	実験	1			
C群：微生物学関係		★食品学実験(2)	実験		1		
		★病原微生物学	講義		2		
D群：公衆衛生学関係		★食品衛生学	講義			2	
		★食品衛生学実験	実験			1	
		★公衆衛生学(1)	講義		2		
		★社会保健学	講義		2		
		★公衆衛生学(2)	講義		2		
		★公衆栄養学(1)	講義			2	
	★給食経営管理論	講義		2			
	E群：その他関連科目	★病理学総論	講義		2		
		★病理学各論	講義			2	
		★基礎栄養学	講義	2			
★応用栄養学総論		講義		2			
★母子栄養学		講義		2			
★加齢栄養学		講義		2			
★疾病別栄養管理論		講義		2			
★臨床栄養学		講義				2	
★臨床栄養管理論		講義		2			
★栄養学実習		実習	1				
	★応用栄養学実習	実習			1		
備考：★印は、管理栄養士必修科目 ○印の内1科目を履修							